



フィン宮殿（カーシャーン、イラン）
撮影：鈴木珠里

イラン現代詩における Home/Homeland

スィーミン・ベフバハーニーと
フォルグ・ファッロフザードの人生と作品

鈴木 珠里

1. はじめに

皆さん、こんにちは。今日は「イラン現代詩における Home/Homeland —スィーミン・ベフバハーニー^{※1}とフォルグ・ファッロフザード^{※2}の人生と作品」と題して、イランを代表するこの二人の女性詩人についてお話ししていきたいと思います。

今、私の手元に『イランの女性詩人』^{※3}という選集があります。主に 19 世紀末から 20 世紀のイランの女性詩人 393 人の作品を集めたものです。

393 人と聞くと、イランには女性詩人が多いのだな、と感想を持たれるかもしれませんが、イランはペルシアと呼ばれた時代から長い詩の歴史を持っているにもかかわらず、女性が詩集という形で作品を残したのは近代に入ってからでした。実

際、この 393 人の中には、その生涯についての言及もなく、作品も 1 ページにも満たない詩人も収められています。この選集で扱われた現代詩人の中で圧倒的にページが割かれているのが、フォルグ・ファッロフザード、次いでスィーミン・ベフバハーニーなのです。ちなみに、詩集の出版で有名な出版社、ネガー出版社が出している「我らの時代の詩」^{※4}というシリーズがあり、現在までに 16 人のイランを代表する現代詩人の選集が出版されているのですが、それに名を連ねている女性の詩人は、この二人だけです。フォルグが亡くなってから 54 年、スィーミンが亡くなって 7 年が経ちましたが、彼女たちの作品は今でも老若男女、国内国外問わず多くのイラン人から愛唱されています。

スィーミン・ベフバハーニーは 1927 年に生まれ、2014 年に 87 歳でこの世を去りました。14 歳の時に新聞に詩を発表して以来、晩年病床に臥すまで、全部で 20 冊の詩集を出版した多作の詩人でした。一方、スィーミン誕生から 8 年後の 1935 年に生まれたフォルグ・ファッロフザードは 1963 年、自らの運転する自動車の事故により 32 歳という若さで亡くなっています。存命中に出版された詩集は 4 冊で、5 冊目の詩集は死後



※3『イランの女性詩人』

に出版されましたが、わずか 100 ページほどの薄いものでした。作品数では圧倒的にスィーミンの方が多いのですが、前述した『イランの女性詩人』の中でスィーミンの作品を扱うページが 7 ページ（これでも他の女性詩人たちよりも多い方ですが）なのに対して、フォルグは 53 ページも占めているのを見ても、フォルグの影響力の大きさを感ずることができるかと思えます。そして作品の数だけでなく、彼女たちは比較的近い世代に生まれたにもかかわらず、その人生と作品の印象も全く対照的です。

では最初に 20 世紀イランの社会情勢とその時々の詩壇の潮流を俯瞰しつつ、この二人の詩人の人生を追い、次に彼女たちが描いた Home/Homeland のイメージについて論じていこうと思えます。

2. 二人の女性詩人の実人生と社会的背景

2-1. 1920 年から 30 年代のイラン社会と詩壇の潮流

まず、二人の詩人が生まれる前のイランがどのような社会と文化的背景であったのかからお話していきます。

20 世紀初頭、イギリスとロシアによって半植民地化されたガージャール朝政府に対し、商人や職人層の都市住民やイスラーム聖職者たちが中心となり、国民議会の開設、憲法制定、外国勢力の排除を訴えた抗議運動、つまり立憲革命運動が起こりました。この立憲革命運動と並行するように、ペルシア文学上でも大きな変化が生まれました。新聞や雑誌、翻訳を通して西洋文化が流入したことによって、これまでのペルシア文学には無かった新しい概念、たとえば「祖国」「自由」「労働者」といった単語が用いられるようになったのです。この運動は 1911 年の帝政ロシアの軍事介入によって衰退し、ガージャール朝は国家としての機能を完全に失いました。

そのような無政府状態の中、ペルシアのコサック師団将校だったレザー・ハーン^{※6}が 1921 年、クーデターを起こしテヘランを掌握すると、その直後からイラン国軍の司令官、翌年には首相として反体制勢力や地方権力を制圧し、1925 年、ガージャール朝の廃止を議会で宣言するに至り、翌 26 年

レザー・シャー^{※7}としてパフラヴィー朝初代皇帝に即位しました。レザー・シャーは国内の軍隊を統一し中央集権化を進める中で西欧志向型の近代化を推し進めていきます。レザー・シャーの台頭により、詩の世界でも、社会変革を求めた立憲革命期の率直で自由な気風の作風は姿を消し、代わりに、ヨーロッパのロマン主義的技法を用い、これまでの伝統的なペルシア詩の伝統的韻律に変化を与えた「シェエレ・ノウ」^{※8}、直訳すると「新しい詩」がニーマー・ユージー^{※9}によって提唱されました。この時、ニーマーによって生み出された自由韻律詩と呼ばれる新たな詩形は、スィーミンやフォルグを含む後の現代詩人たちに決定的な影響を与えますが、当時はまだペルシア詩と言えば古典定型詩の伝統的韻律が当然とされていて、彼の提唱した技法が積極的に受け入れられることはありませんでした。

このようにスィーミン・ベフバハーニーやフォルグ・ファッロフザードが誕生した時代は、イランにおける歴史的、文学的に大きな変化の胎動期でした。では、彼女たちについて具体的に述べていきましょう。

012 スィーミン・ベフバハーニーは、1927年、テヘランに生まれました。彼女の父親アッバース・ハリリー^{※10}は、イラクのナジャフ出身でしたが、イギリスのイラク植民地政策反対運動の首謀者の一人として死刑宣告を受けたため、イランに逃れました。アラビア語にもペルシア語にも堪能で、ペルシア古典文学に精通し、ペルシア語の民族叙事詩として知られる『王書』のアラビア語訳などの文学研究を行いながら、一方で、『エグダーム』という急進的な新聞の発行人となりました。その新聞に、スィーミンの母親が投稿したのが縁で二人は知り合い、結婚、スィーミンが生まれました。ハリリーは政治活動にも積極的に参加し、後に1950年代初頭、世界に衝撃を与えた石油国有化運動の立役者となったモサッデグの盟友として、彼の率いる「国民戦線」の主要メンバーとして活動しました。

スィーミンの母親ファフレオズマー・アルゲン^{※11}も、ガージャール朝の名家の出身で、彼女の父親が女子教育運動の先駆者だったこともあり、当時の女性には珍しく兄弟たちと一緒にペルシア文学、フランス語、天文学、歴史学についての教育を家庭で受ける一方、女学校にも通いました。後に父親の遺志を継いで女性の権利向上のための団体「イラン愛国女性

協会」の主要メンバーとして社会活動にも参加します。夫ハリリー氏とはスィーミンの幼少期に離婚し、実家でスィーミンと後に再婚相手となったジャーナリストと暮らしました。中学校でフランス語教師として働きながら、社会活動や文学活動を行っていました。前述した『イランの女性詩人』にも5編の作品が載っています。その中の「女の美」という詩をご紹介します。

女の美とは豊かな巻き毛の髪ではなく
花のごとき顔かんばせや蕾のような口でもない
アトラス織りのスカートやクレージュジョーゼットの服でもなく
エナメル質の靴やギャザーの寄ったブラウスでもない
女の美とはまさにその人の人間性であり貞節さである
かくのごとき女はいずこでも人の輪の灯となる
風よ 私の代わりに男にこう聞いておくれ
この国ではなぜ私を「か弱き者」と呼ぶのかと
もし私がか弱き者ならばいかにして私の責務を
屈強な男を育てるという義務を果せるのか
嗚呼女よ 努めてその体に知識という服まといを纏え
君がその服を纏まという時代に幸あれ
知を誇るその目に惹きつけられ
つねに男は女が願えば山をも砕く※12のだ

013

ファフレオズマーが自宅を文化サロンとして開放していたため、スィーミンの家には文学者や芸術家、社会活動家たちが集っていました。立憲革命期の流れを受け継ぎ、伝統的詩形で社会批判を詠った薄幸の女性詩人バルヴィーン・エエテサーミー※13も、スィーミンの母親と親交があり、幼いスィーミンがこの著名な女性詩人の前で自作の詩を披露したというエピソードはあまりにも有名です。

このような環境の中で生まれ育ったスィーミンが両親から受け継いだであろう詩才を開花させ、また一方で民主化運動に参加していくようにな

るのは必然であったように思います。

一方、スィーミン誕生の8年後、1934年にフォルグ・ファッロフザードはテヘランの中産階級の家庭の6人兄弟の3番目の子どもとして生まれました。父モハンマド・ファッロフザードは、レザー・ハーンのコサック部隊に所属し、後にテヘラン軍事大学を卒業すると、陸軍将校としてレザー・シャー体制の集権化や西欧化政策を指導する立場にありました。一家はテヘラン市内の邸宅に住み、比較的裕福な暮らしをしていました。フォルグの父親は厳格な軍隊式の躰を実践していました（私がイメージするのは、映画「サウンド・オブ・ミュージック」のトラップ一家です）。たとえば、父親が書斎に入ると子どもたちは一斉にそこから出て行かなくてはならないとか、お小遣いが必要なら新聞紙で小袋を作り、それを町で売って自身で稼ぐこと、などといった規律を作り、それに背くと体罰を与えたので、フォルグたちにとっては恐怖の存在でした。ただ、男女問わず子どもの教育には熱心で、フォルグたちは幼い時期に父親から手ほどきを受け、就学前には読み書きが出来るようになり、開放された書斎で古典文学を手にとって読むこともできました。そのような厳しい父親と、伝統を重んじ夫に服従し迷信深かった母親の元にありながらも、フォルグは年の近い姉プーラーンと庭に流れる水辺で遊んだり、父親の書斎でたくさんの本を読んだり、時には祖母から物語を聞いたり、幼少期に豊かな感受性を育てていきました。^{*14}

014

2-2. 1940年代：レザー・シャー体制の崩壊

1930年代、中央集権国家を形成していったレザー・シャーは、ヘジャーブ禁止令発令・国民銀行創設・徴兵制度の実施・アメリカ人顧問財政担当官による税制改革・イラン縦貫鉄道の設置・国際連盟加盟・「アリア人の国」を意味する「イラン」への国号変更など数々の近代化政策を強行してきましたが、その反面、言論弾圧やイスラームの軽視などで国民からも大きな反発を受けていました。第二次世界大戦が勃発すると、レザー・シャーは中立の立場を宣言しながらもナチス・ドイツ寄りの態度を取った

ため、1941年、イギリスとソ連の連合軍がイランに侵攻し、王位を息子に譲渡するよう強要した結果、レザー・シャーは南アフリカへの亡命を余儀なくされました。

レザー・シャーの独裁から解放されたことにより言論の自由が復活したことで、様々な政治勢力が誕生します。その中で最も注目すべきは、イラン共産党、ペルシア語で「人民」を表す「トゥーデ」^{※15}党の結党です。この党は、労働者・農民・商人・職人・進歩的知識人の団結を謳い、親ソ連の性格を打ち出し、多くの文学者や知識人たちが賛同しました。後にスィーミン・ベフバハーニーも一時、トゥーデ党青年部に所属しています。一方で、後の石油国有化運動の中心人物となるモサッデグ率いる議員たちの勢力も台頭してきました。

こういった社会的背景の中で、詩人たちも作品の中に社会的・政治的テーマを取り入れ、反帝国主義、戦争、平和などをテーマにした詩が登場するようになりました。

二人の詩人たちはたとえば、モハンマドレザー・シャーが即位した1941年、スィーミンはまだ14歳でしたが、すでに桂冠詩人バハールが編集長を務める『ノウ・バハール』^{※16}紙にこのような詩を投稿していました。

015

空腹で呻く人民よ何をしているのか 貧しく混乱した国民よ何をしているのか

資本家たちは金に彩られた宮殿の中 汝は悲しみの粗末な小屋で何をしているのか

山師よ汝もこの困難な時代に うろたえた人々の命と財産をどうしようというのか

裁判所の自由の波によって逃れたとしても 全能の神の公正なる裁きの場では逃れることができようか（……）^{※17}

これは初めて公式に発表されたスィーミンの作品で、当人が言うには実は韻律が合っておらず技術的には未熟な部分もあったようですが、まだ14歳の少女がすでに社会的視点を持ち政治批判をテーマに作詩している

ということは、彼女の置かれた環境や当時の社会的潮流を考慮しても驚くべきことだと思います。

～・～・～

同じ頃、フォルグはまだ小学校に入学したばかりの子どもでしたが、彼女にとってこの頃が人生で一番美しく、楽しい時だったと後に回想しています。以下の「君が去った後に」という詩は、フォルグが晩年に——と言っても30歳を少し過ぎた頃ですが——詠んだ作品で、「君」とはフォルグ自身の「7歳の時」のことです。話しかける相手が、「7歳の子ども」や「7歳の自分」ではなく、「7歳という時」に話しかけている点がフォルグの独創性豊かなところですが、フォルグは子どもの純粋さや素朴さに「人間のあるべき姿」があると見なしていました。「7歳の時」までが彼女の人生において最も平穏で自由であったからこそ、この詩が生まれたのでしょうか、この頃がイランの現代史上最も自由に発言できた時代だったことを考えると、単なる子ども時代を懐かしむ以上の意味が込められた詩でもあります。

016

ねえ 七歳の時よ

ねえ 驚くべき旅立ちの瞬間よ

君が去った後に起こったことは全て 狂気と無知で溢れていた

君が去った後に 辛い生と明るさをつないでいた窓は

私たちと鳥のあいだにあった窓は

私たちとそよ風のあいだにあった窓は

壊れた

壊れた

壊れた

(……)

君が去った後に 私たちはこおろぎたちの声を殺してしまった

そしてアルファベットの文字から聞こえる鐘の音に

兵器工場のサイレンの音に 熱中した

(……)

そして失った 君の色を失った ねえ 七歳の時よ

君が去った後に 私たちは互いに裏切りあった

君が去った後に 私たちは落書きを全て

鉛の弾で 血の飛び散ったしづくで

路地の壁のしっくいを洗い清めた (……)

(「君が去った後に」『寒い季節の訪れを信じよう』^{※18})

2-3. 第二次大戦後から石油国有化運動の展開と挫折

レザー・シャーの独裁政権が崩壊した後、一時は自由の風が吹いたかのように見えたイランですが、第二次大戦の勃発とともに国内情勢は次第に混迷を極めていきます。当初、中立を宣言したにもかかわらず、実質英ソによって占領されていたイランに、石油利権を狙い新たにアメリカが第三勢力として関与するようになると、1944年には米英ソ三国間で石油利権紛争が勃発し、イラン国内への西側の干渉は激しくなっていました。一方、即位当初は自ら「立憲君主」の立場を誓約しながらも、徐々に軍部を基盤に政治権力の掌握を狙い始めた新国王モハンマドレザー・シャー・パフラヴィーも、イギリスと水面下で自らの権力拡大の画策を始めました。1949年、トゥーデ党員による国王暗殺未遂事件を契機に、トゥーデ党が非合法化されると、その他の左翼勢力や反体制活動家の弾圧が開始されていきました。1950年代初頭になると、さらに大きな出来事が起きていました。実質的な支配権を握った国王が、イギリス資本のアングロ・イラン石油会社と秘かに交渉し、利権拡大の契約に調印したのです。それに対し、モサッデグを中心とした議員たちが王宮での籠城による抗議を行い、やがてその動きは大規模なデモにまで発展し、最終的にはイランの石油国有化法が国会で可決されるに至りました。モサッデグは様々な政治勢力から成る国民戦線を指導下に置き、自ら首相となって石油国有化を進め

ていきました。当然、イギリス政府はイラン石油のボイコット運動を展開します（ちなみに、世界中からボイコットされたイラン国有石油会社から1953年に秘密裏に石油購入の取引をしたのが出光興産で、この「日昇丸事件」が題材になった小説『海賊と呼ばれた男』^{※19}は2016年に映画化されており、記憶に新しい人もいらっしゃるかと思います）。しかし、結局のところ石油国有化運動はアイゼンハワー政権下のアメリカCIAとイギリスのチャーチル政権下のSIS（英国秘密情報部）の陰謀により、国王のクーデターとモサッデグの逮捕という形で終焉を迎えることとなりました。



この時代の転換期に、10代のスィーミンとフォルグも人生の転換期を迎えました。

スィーミンは1946年、在籍2年目だった助産師学校を放校処分となります。彼女がトゥーデ党に関わっていたことを危惧した学校長が、学校を批判する匿名記事を新聞に投稿したという疑惑で彼女とその友人たちを呼び出したことがきっかけでした。校長が彼女たちを激しく非難したのに対し、新聞の匿名記事は濡れ衣だと主張するスィーミンと文字通り殴り合いへと発展し、スィーミンは退学を宣告されました。スィーミン側は裁判所に不服を申し立て、またトゥーデ党も最初はスィーミンたちを復学させるべく運動しましたが、結局、政治的な圧力に屈する形でスィーミンは学問の道を諦めざるを得なくなりました。放校処分となったスィーミンは、その数か月後、不承不承ながら結婚の道を選びました。夫となったハサン・ベフバハーニー^{※20}とは、価値観の違いから夫婦関係はかなり早い段階で冷め切っていたようです。ただ、高校教師だった夫は、スィーミンの学問への意欲や文学への情熱を否定するようなことはなく、22歳で長男を出産してからも学業も文学活動も続けます。24歳で第一詩集『壊れたセタール』^{※21}を出版しました。伝統的詩形が用いられ、愛、別離、孤独、社会批判などをテーマにした詩集でした。この頃、前述した「現代詩の祖」ニーマー・ユーシージに会い、高い評価を受けています。3人の子どもを育てながら、スィーミンは文学活動を続けました。



スィーミンが長男を出産した頃、フォルグは15歳で女子美術学校に通い始めますが、翌1950年、母方の親戚筋に当たるパルヴィーズ・シャープールと出会い、恋に落ちると、家族の反対を押し切って結婚します。パルヴィーズが11歳年上であることや定職に就いていないことなどが反対された理由でしたが、時として及び腰になるパルヴィーズをフォルグは情熱的に説得し、二人は結婚に至りました。この辺りのいきさつは、パルヴィーズの死後発見されたフォルグの手紙から明らかになりました。翌年、二人の間にカーミヤールという一人息子が生まれ、また石油省の仕事に就いた夫とともにイラン南西部の大都市アフヴァーズに転居します。しかし、情熱的で好奇心旺盛な17歳の少女にとって、妻あるいは母となって家庭に入ることは、苦痛以外の何物でもありませんでした。フォルグは自身を「籠の鳥」にたとえ、家庭における閉塞感と、夫以外の男性への恋愛感情を率直に詩にして雑誌に発表しました。



元夫パルヴィーズ・シャープールと

あなたが欲しい でも分かってる 決して
この胸にあなたを抱くことは叶わないと
あなたはあの清らかに輝く青い空
そして私はかごの隅の囚われの鳥だから

冷たく暗い柵越しに
私は悲しみの視線をあなたにじっと向ける
そしてこんなことを考える 誰かの手が伸びてきて
突然私があなたの方に羽ばたいていたらと

そんなことを考える 一瞬の隙をついて
この静かな牢獄から羽ばたいて
牢獄の見張り番の男を見て笑い

あなたの隣で人生をやり直せたらと

そんなことを考える でも分かっている 決して
私にはこの鳥かごから出られる力はないと
もし牢番もそう望んだとしても
もう私には飛び立つほどの力は残っていない
(……)
(「囚われ人」『囚われ人』^{※23})

それはイラン文学史上初めて、女性の私生活や個人的感情が率直に、しかも女性の語り口調で語られた詩でした。これが当時の女性たち、特に若い世代からは賛同と共感を得たのですが、大半の保守的な人々からは大変なバッシングを受けました。当然、

020

フォルグの実家の家族も、彼女と年の近かった姉のプーラーン以外は全員がフォルグを責めました。しかし、フォルグの詩への情熱は冷めることなく、1952年、フォルグの第一詩集『囚われ人』^{※24}の初版が出版されました。評価は大きく二分されましたが、フォルグは詩壇で一躍「時の人」となりました。しかし、フォルグが作詩活動に力を入れれば入れるほど、夫との距離は開き、また家族や世間からの非難は強くなりました。精神的に追い詰められたフォルグは、息子を夫と彼の実家に委ね、4年間の結婚生活に自らピリオドを打つ決心をします。離婚の翌年出版された第二詩集『壁』^{※25}には、奥付の隣に夫パルヴィーズに捧げる言葉が記してありました。



※24 フォルグの詩集『囚われ人』

パルヴィーズに捧げます。

私たちが共にした過去の思い出とともに

私のこのささやかな贈り物が

彼の無限の愛の返答になりますように

フォルグ・ファッロフザード
イラン暦 1335 年ティール月 12 日 (西暦 1956 年 7 月 3 日)^{※26}

その詩集の中で発表された「罪」という詩は、不倫の詩である上にエロティックな表現もあるという理由から今のイスラーム政権下では出版許可が下りず、どんなフォルグ関連の本にも掲載されることはありません。

私は罪を犯した 喜びに溢れる罪を
火の如く熱い抱擁の中で
私は罪を犯した
灼熱の復讐心に燃える鋼鉄の腕の中で

あの暗く静かな秘密の部屋で
私は秘密に溢れる彼の目を見つめた
この胸の心臓は動揺して揺れた
その瞳の奥に見える私への欲望のせいで

あの暗く静かな秘密の部屋で
動揺しつつ彼の隣に座り
その唇が私の唇に欲情を注ぐと
私は狂った心の悲しみから解放されたのだ
(……)
(「罪」『壁』)^{※27}

フォルグの精神的に不安定な状況は、離婚後も改善されることはなく、自殺未遂を企てるところまで追い詰められました。そこで 1958 年、フォルグは療養と気分転換のためにイタリア旅行に行き、そこで 9 か月過ごします。心身ともに充実して帰国したフォルグは、その時の旅行の様子を「異国にて」というエッセイにして雑誌に連載し、また第三詩集『反逆』^{※28}を出版しました。この詩集に、先に挙げた『囚われ人』『壁』とを合

※29

わせた初期三部作は、フェミニズムの視点からは初めて女性の生の声が公にされたという点で、そして詩壇においては古典詩から続く象徴的な恋人像ではなく、個人的経験に基づいて表現された等身大の恋人のイメージの登場という点において、現在、高い評価を受けています。

2-4. モハンマドレザー・シャーによる白色革命と親欧米路線

1950年代後半から60年代のイランは、モサッデグ政権をクーデターによって打倒し、独裁的権力を掌握したモハンマドレザー・シャーの親欧米路線政治と反対勢力への厳しい取り締まりの中、王政の絶頂期を迎えました。1963年には白色革命と呼ばれる農地改革、国営企業の民営化、女性参政権導入、識字率向上、森林の国有化などが実行に移され、強制的な近代化・西欧化政策は旧来の伝統を残していたイラン社会にとっては恩恵とともに大きな混乱を招きました。それでも1960年代後半から70年代前半、急激な石油収入の増加、米国との緊密な関係、軍と官僚機構の拡大により、モハンマドレザー・シャー国王の権力は絶大になります。急速な改革には至る所で歪みが生じ、貧富の格差が広がる中で政権に対する不平や不満を訴える者は徐々に増えていきましたが、秘密警察によって厳しく取り締まられ、逮捕者には容赦なく拷問が加えられ死に至る者もいたほどでした。

022

～・～・～

この頃、二人の詩人たちはそれぞれ新たな道を歩み始めました。

子育てと高校教師の仕事を両立していたスィーミン・ベフバハーニーは1958年、31歳の時にテヘラン大学法学部に入学し、後に二番目の夫となるマヌーチェフル・クーシヤール^{**30}と出会います。36歳の時にイラン・アメリカ協会文学会議にも参加し、開会の辞はスィーミンの詩によって行われました。4年後、法学部を卒業しますが法曹界には進まず、高校で教鞭を執りながら文学活動を続けていきます。1969年、42歳でラジオ番組の制作に関わり、時にはラジオ音楽の作詩も担当し、そこで歌手たちと知り合いました。さらに当時活躍中の詩人たちが多く所属していた「ラジオ・詩と音楽評議会」^{**31}に入り、議長も務めました。この頃、最初の夫と

離婚が成立し、マヌーチェフル・クーシヤールと再婚します。彼が1984年に心臓発作で亡くなるまでの14年間、愛のある生活を送ったと、後にスィーミンは述べています。また作詩活動においては、伝統的スタイルの一つである抒情詩（ガザル^{※32}）詩形の再構築を試みます。この試みは成功し、スィーミンは「バーヌー・ガザル^{※33}」つまり「抒情詩婦人」と呼ばれるようになりました。1977年、50歳を迎えた時、イラン作家協会のメンバーに選ばれ、1979年のイラン・イスラーム革命以降も表現の自由のために闘っていくことになります。

～・～・～

一方、フォルグは1958年、映画監督で作家のエブラーヒーム・ゴレスターン^{※35}が経営する映画スタジオで、生活費を稼ぐためにタイピストとして働き始めました。彼との出会いが、フォルグの人生を大きく変えていくことになります。ゴレスターンは彼女の豊かな感性をいち早く見抜き、早々にフォルグを映画制作部門へ移しました。

フォルグはゴレスターンの下で映画制作の基本を学び、さらに渡英し短期間に映画技術を身に付けます。また、彼を通じて多くの文学者や芸術家、知識人たちと交流し、自身の感性と思考を高めていきました。1962年秋、ハンセン病患者の支援団体からこの病気の啓蒙を目的とした映画制作を依頼され、監督に抜擢されたフォルグは3人の撮影スタッフとともに2週間近くこの療養所に滞在し、患者たちと過ごす中で、彼らの外見の醜さの向こうにある人間の本質的な姿を、詩情豊かに撮影することに成功したのです。その結果生まれたのが、短編映画『あの家は黒い』^{※36}です。この映画は国内外で大きな反響を呼び、翌年、旧西ドイツのオーバーハウゼン国際短編映画祭で最優秀賞を受賞しました。また、1966年には、フォルグはイタリアのペーザロ映画祭に招待され、



エブラーヒーム・ゴレスターン



『フォルグ・ファツロフザードと映画』表紙

ベルナルド・ベルトルッチといった世界的な映画監督と交流し、国際的な監督デビューも果たしました。一方、文学活動においても詩人としての円熟期に入ります。30歳の時に出版された第四詩集『新たな生』——直訳すれば「再生」もしくは「生まれ変わり」——では、彼女の詩人としての「再生」ともいえる新しい試みが観て取れます。伝統的な定型韻律に縛られることなく、口語に近い韻律リズムを積極的に詩に取り込みました。彼女の技術的な試みは、後の詩人たちにも大きな影響を与えています。テーマにおいても、個人的な感情の吐露に留まらず、自己の内面をより深く内観した結果、人間の本質への希求、孤独、社会的閉塞感などが加わる一方、外的世界への視野が広がり、社会批判や社会風刺といったテーマも扱うようになりました。翌1965年、雑誌『アーラシュ』^{*38}に長編詩「寒い季節の訪れを信じよう」他7編の作品を発表しました。この頃にはフォルグは詩壇や芸術家サークルの中心的存在となっていました。しかし、こういった名声とは裏腹に経済的にはかなり困窮していました。女性一人で、ましてや詩人が純粋に芸術活動だけで経済的自立をするのは難しい時代でしたので、フォルグは亡くなるまでゴレスタンから経済的支援も受けていました。また、彼が既婚者であるがゆえに社会から批判を受け、さらに二人の強烈な個性のぶつかり合いは絶えなかったようで、フォルグは経済状況以外にも常に精神的なプレッシャーと孤独に苛まれていました。

そして、1967年2月13日午後4時30分、自ら運転する自動車の事故によりフォルグは32歳の短い生涯を閉じました。詩人の訃報はその日のうちにイラン全土に伝わり、2日後の葬儀には多くの文学者、芸術家、知識人が集まり、多くの詩人が彼女の死を悼み挽歌を詠みました。最後の詩集『寒い季節の訪れを信じよう』^{*39}は、雑誌『アーラシュ』に掲載された8編の詩と未発表の詩1篇が収録され、その死から7年後の1974年に出版されました。フォルグの実人生についてのお話はここで終わります。



フォルギーの墓地（イマームザーデの入り口と墓石）

2-5. イラン・イスラーム革命とイラン・イラク戦争

これ以降はシーミンに関わるお話になります。1970年代に入ると、国王による反体制派への抑圧にもかかわらず、国内では密かに様々な反体制活動グループが一斉抗議の声を上げる準備をしていました。1978年、とうとう反体制運動がタブリーズをはじめとする諸都市で起こると、それと連動してイラン全土でデモやゼネストが実施され、抗議運動は軍との武力衝突へと突入する事態となります。1979年1月に国外退去を余儀なくされた国王と入れ替わるように、亡命中だった反体制派の指導者ホメイニー師（1902-1989）が翌月、凱旋帰国し、パフラヴィー朝は終焉を迎えました。そして彼の提唱した「イスラーム法学者による統治」^{※41}に基づくイスラーム体制がわずか半年の間に成立したのです。反国王の旗印の下、革命には多様な主義主張の勢力が参加していましたが、ホメイニー師とその一派の強権的な革命組織による政治闘争が始まり、この過程において前政権関係者や反ホメイニー師派への弾圧が行われたと言われていました。一方で隣国イラクで独裁体制を確立した大統領サッダーム・フセインがこのイラン情勢の混乱に乗じ、1980年、一方的にイランへの大規模攻撃を開始し、8年に及ぶイラン・イラク戦争が勃発しました。

反米的イスラーム体制が敷かれた結果、王制時代の西欧化されたイラン社会の雰囲気は一掃されました。すべての文化活動はイスラーム法に則っていると認められた場合にのみ許可されるようになり、西欧から影響を受け培われてきた芸術・文化・文学の流れは全て断たれてしまいました。多

くの発行物は検閲の対象となり、廃刊または内容の全面改訂に追い込まれました。革命と戦乱によって混乱するイラン社会において、多くの知識人や芸術家たちが活動の拠点を失い、ある者は新しい体制に反対した罪で逮捕、拘禁され、またある者は海外に活動の場を求め祖国を去りました。

～・～・～

そのような状況に置かれても、スィーミンはイランを去ることなく、根気強く表現の自由や女性の権利向上を訴え続けました。この闘いは一人ではありませんでした。彼女と志を同じくする者たちをスィーミンは兄弟姉妹と呼び、彼女を敬愛する下の世代の若者を娘たち息子たちと呼んでいました。彼らに彼女は詩を捧げています。その中でも最も有名な詩が「再び君を造ろう、祖国よ！」という詩です。この詩は、イラン作家協会初代メンバーの一人でスィーミンが姉と慕い、長年の盟友であった作家スィーミン・ダーネシュヴァル^{*12}に捧げられました。

026

再び君を造ろう 祖国よ！ たとえこの身を礎にしようとも
柱を君の屋根に接ごう たとえこの骨を礎にしようとも
再びその匂いを嗅ごう 君に咲く花を 君の若者たちが望むとおりに
再び洗い流そう 血まみれの君を この止まらぬ涙で
(……)
再び力を授かろう たとえ私の詩が血まみれになろうとも
再び君を造ろう この身に代えて たとえこの力の限界を超えても
(「再び君を造ろう、祖国よ」『アルジャン平原』)^{*13}

この詩については後ほど Home/Homeland の章で詳しくご説明します。また「ジブシーのごとく」という 20 編の連作では、自分の信念に基づき情熱的に行動するジブシーの女性たちが描かれているのですが、スィーミンの同志の女性たちを連想させます。実際に女性活動家の集まりでこの詩をスィーミン自ら朗読する動画がオンライン上で見られるのですが、彼女の朗読が終わると、その場にいた女性たちが感極まって立ち上がり、互いにハグしあう光景が印象的でした。

(……)

静寂の片隅から　古びた^{セタール}三弦楽器を取り出し
懐かしの歌に合わせ　三弦楽器の調べを整えよ
その歌は何だったか　ああ、そうだ
「我が手から花を取り　その匂いを嗅げ」だ
恐ろしい沈黙を　この家から追い払え
歌え、踊れ、そうだ！　笑い、騒げ
馬に乗ったあの男が　戸口に現れたら
花を摘み、そして　それを彼の足元に捧げよ
その男はお前の家で　今宵一夜を過ごすのだから
彼が命じることは何にでも　礼を尽くして従うのだ
翌朝　お前に　石打ちの刑が下されたら
心の血で手足を洗い清め　愛する者への祈りを捧げよ
(「ジプシーのごとく(11)」『アルジャン平原』^{*44})

027

日没の紅に染まる中　しゃんと背筋を伸ばし
ジプシーの女は　黒檀や金でできた偶像のようであり
涙の滴のダイヤが　媚びた眉墨に溜まり
その滴はお前への悲しみの仕業　そしてその眉墨は神の仕業
その女の一方の頬は　お前の手が叩いた跡の痣
しかし彼女は反対の頬を見せ　つまり、叩くならこちら側をも！と
お前の剣が宿す光に　頑なに足を踏み堪え
胸を前に突き出した　つまり、殺されるは本望！と
(……)

(「ジプシーのごとく(16)」『アルジャン平原』^{*45})

また、1988年、多くの政治犯たちが不当に処刑された時には、「さあ、母たちよ」という詩を発表しました。

(……)

狂ったように火は燃え盛り　その軍隊は囚人たちを焼きつくした
彼らの灰はいずこ　風よ私たちに届けておくれ
墓石もなく墓穴もなく　陳述書すらない
彼らの名前と証しは　もはや記憶にしか残っていないのか
否、否、彼らは潔白だ　良心的な知識人たちは天となった
彼らのうちのどの星も　毎晩知らせてくれるだろう
辛い辛いけれど私は　知っている　明日は敵が
頭から足の先まで燃やされるだろう　この不正義の火の中で
さあ　母たちよ！　手を取り合い　革命家よ列をなせ
悪魔の心が爆ぜるように　叫べ共に叫べ！
(「ああ、母たちよ」 詩集未収録)^{*46}

私が紹介するスィーミーン028の詩はどうしても社会的なテーマのものを選びがちですが、彼女の詩は社会的メッセージ性の強い作品ばかりではなく、親しい者たちへの愛情を歌う詩などもたくさんあります。たとえば1984年、最愛の夫が心臓発作で急逝した時の悲しみをこう綴っています。

書いては消して　失ったものを見つけるために
この混乱した想像の世界に　言葉を与えて語るために
細い象牙の指で　この頭蓋骨の後ろを搔く
もつれた糸玉を　少しずつほどくために
埃にまみれたこの思考の中で　あなたの顔は色褪せてしまった
疲れきったまぶたを閉じる　それでも残ったものを観るために
(……)
(「書いては消して」『自由への窓』)^{*47}

もう一編、彼女が「バーヌー・ガザル」つまり「抒情詩婦人」と呼ばれていたことは先にお話ししましたが、彼女の代表的な抒情詩をご紹介します。これは、ペルシアの有名な古典詩人ハーフェズの「反逆の稲光が神に選ばれし精髓アダムにも落ちるのであれば／私のような人間が「罪な

き者」と言えようか」という詩にインスピレーションを受けて創った詩です。私の翻訳では彼女の抒情詩詩形のリズムまでお伝えすることはできませんが、言葉の美しさ、繊細さを感じて頂けたらと思います。

夜、瑠璃そして静寂 私、火焰そして忍耐
番つがいの小鳥を縫おう 薄絹のような孤独の上に
番の小鳥を縫おう かつての私のような恋人の姿で
赤い嘴を開いて さえずりのハーモニーを奏でる
小鳥たちの目は二つの鏡 かつての私のような鏡
そこに嵌めるのは 藍色をした空にある二つのトルコ石

瑠璃と静寂の中で 俗な歌を
鬱屈した考えから逃れるように 歌い始める
子供時代の不吉な夢に 私の唇は 睡蓮のように固く閉じ
お伽話や子守唄を聞かせて 私を寝かしてくれた乳母はどこ？
まだ手を付けてない一塊のナンと夜食は遅くまで
まるで食事の支度と生けた花を忘れてしまったかのようだ
ハーフェズの詩集を開き私は「反逆の稲妻が…」を読み つぶやく
アダムにさえ落ちる稲妻をも 私は惹きつけないようだ
その反逆の稲妻は 雨を待望する稲叢に恵みの閃光を放つ
閃光への恐怖があろうはずはない この絶望した沼には

029

瑠璃と静寂の中で番の小鳥を縫おう
絹のような夢のような 柔らかなものの上に

薄絹のような孤独の上に 黎明を見れば
番のうちの一羽だけが残って、耐えることに慣れてしまった……
（「夜、瑠璃そして沈黙」^{※48}『自由への小窓』）

話をスィーミーンの生涯に戻しましょう。詩集『アルジャンの平原』^{※49}の

出版後、スィーミンにイラン当局から出版禁止命令が下されました。6年続いた発禁処分^{※50}の解除後、1989年に対談集『芸術と文学について』を、1990年に『スィーミン・ベフバハーニー撰集』^{※51}を出版し、また同じ頃、アラブ首長国連邦へ渡り、在外イラン人のための詩の朗読と講演を11か所で行いました。スィーミンは晩年まで精力的に海外とイランを行き来しています。在外のイラン人たちにとってスィーミンは、祖国イランと自分たちを繋ぐ架け橋であり、希望でもあったのでしょう。1990年代には合計で16冊の詩集と1冊の選集、1冊の回顧録を出版しました。もちろん、イラン国内で出版されたものには検閲が入り、何か所か削除されていますが。1998年、改革派ハタミー大統領^{※52}が当選し、言論統制の緩和が期待される中、長年の民主化運動を評価され、人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチより、「リリアン・ヘルマン／ダシル・ハメット賞」が授与されます。翌年、ペルシア文学研究者で翻訳家ファルザーネ・ミラーニー氏によるスィーミン・ベフバハーニー英訳詩集『罪の盃』^{※53}がアメリカで出版、ノーベル文学賞の候補にノミネートされ、国際人権連盟から「カール・フォン・オシエツキー賞」をベルリンで授与されました。この年はデンマーク作家協会の招きによりコペンハーゲン旅行も行っています。2002年、二度目のノーベル文学賞候補にノミネート。2006年、イラン国内で女性を中心に「差別的な法律撤廃のための100万人署名キャンペーン」が行われ、多数の逮捕者が出ましたが、スィーミンは女性たちの連帯を訴え、同年ノルウェー作家協会から「表現の自由賞」が送られました。2008年、大阪大学の招聘で来日を果たし、講演と新作を含んだ何編かの詩を朗読してくれました。

彼女が朗読してくれた作品をいくつか、重要なさわりの部分だけでもご紹介しましょう。一つ目は「そして見よ」という作品です。本人曰く、ある田舎の町を車で通った時に水不足を訴える人々の暴動を見て書いた詩だそうです。

そして見よ 駱駝を、そうだ	神がどのようにそれを創造されたのかを
泥と水からではなく	まるで蜃気楼と忍耐から造られたようだ

そう お前は皆知っている どのように蜃気楼が目を欺くのかを
しかし、蜃気楼は知らない どのように忍耐がなされているのかを
喉の渴きや、砂や、塩田に対し どのように忍耐がなされているのかを
(……)

そしてお前はこの虚無の中で 水を求める駱駝の渴望を目にするだろう
その荷の重さに耐え切れず 狂気が駱駝を襲うのを
その狂気が獐猛に並ぶ歯の中で 二本の鋭利な切歯に変わるのを
忍耐が荷への恨みに変わり 恨みが傷へと変わるのを目にするだろう
そして見よ 恨みを晴らすべく 駱駝追いの動脈に歯を立てたのを
蜃気楼のせいで忍耐を失った あ駱駝を見よ、そうだ……
(「そして見よ」『自由への小窓』^{※54})

そしてもう一つの詩は、これは私が一番好きな詩なのですが、来日前に
ファクスで送ってくれた比較的新しい作品です。スィーミンは、他の人
が書いた作品が「スィーミン・ベフバハーニー作」として世に出回るの
を避けるために、新しい作品は必ず自筆で発表しているそうです。「八十
歳で恋？」という、社会的テーマとはまた別のスィーミンの魅力溢れる
作品だと思います。

031

八十歳で恋？

おかしなことだと認めなさい
老いたイヴ でもまた
林檎を齧ろうと思っているの！

唇は紅く、その髪は黄金色
美しく、でも、それは本物ではない
頬に紅色が美しくとも
それは化粧 それは贗物

私の胸の中で 恋に狂った心臓が

期待でばたばたとはいけんばかり
70 回も打った鼓動が
まるでその倍の数も打ったかのようだ

(……)

アダムよ！ さあ、私を見て
取繕うのも否定するのももうやめなさい
この八十歳のイヴは
二十歳の娘が好敵手^{ライバル}なのだから！
(「八十歳で恋？」詩集未収録^{※55})

来日した時、スィーミンは目の手術の失敗のために視力がほとんどない状態でしたが、世界各地にあるイラン人コミュニティーやイラン研究団体の要請に応じて、積極的に講演や朗読会を行っていました。2009年、大統領選挙における不正行為に抗議した「緑の運動」が学生を中心にイラン国中で起こり、多数の逮捕者や行方不明者が出ると、スィーミンは不当逮捕された学生の母親たちとともにデモに参加、当局側の過度な弾圧で命を落とした女子学生への追悼の詩や、大統領を非難する自筆の詩をウェブサイトで発表しました。

032

もし祖国の怒りの炎が さらに高く燃え上がれば
お前の名が刻まれた墓石には 悪臭が交わるだろう
お前は多弁なお喋り好きとなり、 限りなく横柄になった
お前の戯言のごとき主張は 嘲笑の元にしかならぬ
お前が見付けた嘘は 繊維のごとく織り込まれた
お前が燃った縄は お前の首をくくることになるだろう
(……)

たとえお前が私を火あぶりか 石打ちの刑に処すことを望もうとも
お前の手にある燐寸は消え そして手にした石は力を失うだろう
(「我が地を風に委ねるな」詩集未収録^{※56})

この時、スィーミンは82歳でしたが、時におぼつかない足取りで両脇にいる女性たちに支えられながらも自ら拡声器を持って詩を朗読する姿に、運動参加者はどれだけ励まされたことでしょう。

スィーミンの功績が世界的に讃えられるのと比例するように、イラン当局からの圧力は強まる一方でした。2010年、パリ市役所からの招待で「世界女性デー」のセレモニーに出席するためにテヘランの空港から出発しようとしたところをイラン革命防衛隊によって拘束され、パスポートを押収された上に一晩拘禁されるという出来事がありました。それでもスィーミンは書くことも、民主化運動に参加することも止めることはありませんでした。2013年には「詩のノーベル賞」と評される「ヤヌス・パンノウス大賞」をハンガリー作家協会から送られました。スィーミンはこの賞について「生涯で最も素晴らしい賞」と、受賞を喜んだといっています。

2014年8月19日、スィーミンは肺性心という循環障害のためにテヘランの病院で87年の波乱に満ちた人生に幕を閉じました。同月22日、盛大な葬儀が営まれ、セレモニー会場となったテヘラン中心部のヴァフダト劇場には、芸術家、文学者、社会活動家の他に一部政府関係者も参列し、そこから埋葬地のテヘラン郊外ベヘシュト・ザフラー墓地までの25キロの道のりは、野辺の送りに参加する一般の人々で溢れかえっていました。彼らはベフバハニーの遺影を手にしながら、彼女の詩を誦んじ、愛国歌「ああ、イラン」を歌いながらこの偉大な詩人の死を悼みました。



ベフバハニーの葬儀の風景

3. 二人の詩人にとっての Home/Homeland

二人の人生と背景となったイランの歴史を駆け足で見ましたが、いよいよ本題に入りましょう。この二人の詩人が Home/Homeland をどのように描いているのか、彼女たちにとって Home/Homeland とはどんな意味を持っているのかについてお話ししていきます。

3-1. フォルグにとっての Home/Homeland

まずはフォルグにとっての home とはどんな意味を持つのかについてお話ししましょう。彼女の初期の作品から晩年の作品まで、「家 (home)」^{※57} はよく扱われるテーマの一つであり、自身をがんじがらめにする存在として描かれています。先にご紹介した「囚われ人」の中でも「家」は「鳥かご」や「牢獄」にたとえられていました。

034

(……)

ああ 空よ もしある日私が
この静かな牢獄から飛び立つとしたら
泣く子の目に私は何と言おうか
私のことは忘れて 私は囚われの鳥だからと

私はあの蠟燭 自らの心を燃やして
廃墟を照らす蠟燭なのだ
もし消えてなくなることを選んだら
小さな家を苦しめてしまうのだ
(「囚われ人」『囚われ人』)^{※58}

同じ第一詩集の中に「捨てられた家」という詩があります。

(……)

分かってる 今 あの遠く離れた家から
幸せが流れ出していることも
分かってる 今 涙にくれた幼子が
母との別れを嘆いているのも

でも魂が疲弊し苦悩しながらも
私は進むべき方へと進む
私の恋人は詩 私の慰めは詩
私は恋人を探しに歩いて行く
(「捨てられた家」『囚われ人』^{*59})

この詩はフォルグの詩人としてのマニフェストでもあります。彼女が詩人として生きる上で「家」という存在は拠り所になりえない、むしろ足枷のような存在だったのです。この詩を書いてから10年以上経って書いた「金曜日」という詩においても、「家」のイメージはほとんど変わっていません。

035

(……)
空虚な家
落胆した家
若者の混雑から扉を閉ざした家
暗闇とただの太陽のイメージの家
孤独と占いと疑念の家
(……)
(「金曜日」『新たなる生』^{*60})

イスラームを国教とするイランでは金曜日が週末なので、私たちにとっては日曜日に当たります。休日の家とは最もくつろげる空間、あるいは拠り所であるように思うのですが、フォルグにとっての金曜日の家には全く良いイメージがありません。離婚し、一人息子も手放し、時折恋人が訪

ねてくる生活になっても、やはり彼女にとっての「家」に対する否定的なイメージは消えませんでした。彼女にとって「家」はかつての夫や実家の家族を象徴する、自分をがんじがらめに縛る存在にしかかなりえませんでした。

フォルグの監督した短編映画『あの家は黒い』においても、彼女が持つ「家」のイメージが観て取れます。それは映画の最後、ハンセン病療養所にある学校の授業のシーンです。教師が一人の生徒を指名し、黒板の前に立たせると「家という単語を使って文章を作りなさい」と言います。すると生徒はしばし考えます。次のシーンではその少年が頭の中で描いたイメージが変わります。それは、おそらく外に出ようと療養所の門まで歩いて来たハンセン病患者たちの目の前で、頑丈な扉が無情にも閉められるシーンでした。そして、少年はペルシア語の単語を黒板に一単語ずつ書いていきます——「家」「黒い」「です」。映画はそこで終わります。それま

で映画では、私たちと変わらぬハンセン病患者たちの日常が描かれていました。教室の授業風景、庭で遊ぶ子どもたち、礼拝所で熱心に祈る男たち、食事に並ぶ老若男女、赤ん坊に乳をやる母親、子犬をくわえて歩く母犬、患者同士の結婚式……。しかし、ラストシーンで、彼らはハンセン病患者の「家」からは出られないことを思い知らされるのです。「家は黒い」と書いた少年も特に悪意や他意があった感じではなく、「家」という単語から素直に連想して「黒い」と書いたのも印象的でした。「家」は、フォルグにとって空間的にも精神的にも閉じ込められる「黒い」場所であって、決して拠り所にはならないのです。

では、彼女にとっての拠り所はどこなのでしょう。それは「庭」あるいは「小庭」^{※62}です。「家」の外にある「庭」にこそ、彼女は自身の求める真実が存在するのだと、詩の中で主張しています。



「あの家は黒い」チラシ

(……)

皆知っている

皆知っている

私とあなたが狭く冷たいあの穴から

その庭を見たのを

そしてゆらゆら揺れる遠くにあるその枝から

林檎をもいでしまったことを

(……)

皆知っている

皆知っている

私たちは不死鳥たちの静かで冷たい夢に向かって道を歩んでいる

私たちは真実を小さな庭で見出した

(……)

(「庭の勝利」『新たなる生』^{※63})

037

「私たち」というのは、エブラーヒーム・ゴレスターンとフォルグのことです。世間から不倫関係だと非難されても、彼らは決して自分たちの関係を隠したり恥じたりせず、むしろかけがえのないパートナーとしてふるまっていました。ラジオでフォルグのロングインタビューが放送されたことがありますが、そこでも二人揃って出演していました。二人の愛でつながった関係こそが、彼女の求める真実の関係だったのです。不自由さの象徴である「家」の外にある「庭」にこそ、本当の愛ある関係を見つけたのだと語ります。一貫して否定的なイメージで描かれる「家」と対照的に、「庭」は彼女の詩集、特に『新たなる生』以降の作品で肯定的な存在として描かれています。たとえば、「新たなる生」では、こんな風に庭が描かれています。

(……)

わたしはこの手を小庭に植えよう

やがて緑の芽が出よう 分かっている、分かっている、分かっている

そしてつばめ達がインクの付いた私の掌に
 卵を産み落とすのだろう
 (……)
 (「新たな生」『新たな生』^{※64})

イランにおいて緑色は様々な良いイメージがあります。イラン人の大半を占めるシーア派の人々にとってはイマームたちの神聖なイメージカラーであり、そして新春（ノウルーズ）に飾る「サブゼ（若草、スプラウト）」に代表される再生のイメージがあります。作詩している間にインクのしみがついたフォルグの手は一度埋められても「再生」し、そして「神聖さ」を表す緑色のイメージが重なったところで新たな小さな命のもとである卵をつばめが託す、つまり新しい何かを託されたのです。それは新しい作品か、あるいは新たに生まれ変わったフォルグ自身なのかもしれません。

038

一方、フォルグの詩の中で「祖国 (homeland)」^{※65}はどのように描かれているのでしょうか。幼少期から社会的事象に目を向けることが当然の環境に居たスィーミン・ペフバハーニーと異なり、フォルグが社会的関心を持つようになったのは20代後半になってからでした。それゆえ、初期三部作に homeland や社会について言及されたものはありません。フォルグがラジオインタビューで述べていたように、彼女が知識人としての自覚と社会的関心を持って作詩をするようになったのは『新たな生』以降、つまりモハンマドレザー・シャーによる独裁体制が強化された頃で、この時代に顕在化した社会問題をテーマにした詩を書いています。たとえば、「ああ、栄えある我が祖国よ」と私は少々意識しましたが、直訳すると「ああ、宝溢れる国」という題名の詩があります。この題名は「エイ イーラーン（ああ、イラン）」^{※66}という歌の歌詞の一部から取ったもので、当時の王制を批判し愛国精神を揶揄した詩です。その元となった「ああ、イラン」は、第二次大戦中、傍若無人な連合国側の兵士の行動に憤りを覚えた植物学者で音楽家、文学者でもあったホセイン・ゴレゴラフが彼らへの抵抗として祖国を賛美する詩を書き、それに感銘を受けた作曲家によって曲が付けられた歌です。革命前に流行した歌でしたので、革命直後は歌うこと

を禁じられていましたが、イラン・イラク戦争時には兵士を鼓舞する歌として公に再認されました。イラン国歌ではないのですが、今も昔も、祖国イランを思う人々に広く歌われている歌で、サッカーのワールドカップの応援の時に良く耳にします。また、スィーミン・ベフバハーニーの葬列を見送る人々の間でも歌われていました。

ああ、イラン 宝溢れる国よ
君の大地は善意で溢れ
君から遠ざかれば悪意がはびこる
君よ、とわにとこしえに
敵が石となるならば 君は鉄となる我が祖国の
清き大地のために この命捧げよう
(……^{※68})

フォルグが書いた「ああ、宝溢れる国」は、この「ああ、イラン」の愛国精神を皮肉った詩です。詩は、「やった 登録に漕ぎつけた」とこれも意識しましたが、直訳すると「私は住民登録を勝ち取った」と喜ぶ言葉から始まります。もちろん、住民登録は勝ち取るものではありませんから、これは皮肉です。「こんな素敵な国の住民で幸せ！」と徹頭徹尾皮肉まみれです。長い詩ですので、「祖国」という単語が用いられている個所をピックアップしてみました。

039

やった
登録に漕ぎつけた
私は名前を一枚の身分証明書に記入した
そして私の存在は番号で識別された
万歳 テヘラン市第5地区住民第678号
もう私はあらゆる面で安心だ
祖国の愛情深き胸の中で
歴史的栄光多きお歴々のおしゃぶり

文明と文化の子守歌

法律のガラガラであやす音 ……

ああ

もう私はあらゆる面で安心だ

(……)

明日から 私だって貰える

毎週水曜日の午後から行われる

偉大な王朝の理想のおこぼれを

愛国者が切望し懸念しながら授かるように

私の脳と心臓の中に入れておくことができる

それで冷蔵庫や家具やカーテンを消費しようと

千リヤールに群がる千人もの者たちからのおこぼれを

もしくは六百七十八票の得票のお礼に

ある晩六百七十八人の祖国の男たちに施すおこぼれを

(……)

やった そう 手に入れた

テヘラン市第5地区住民第678号 これは勤勉と意志の庇護の下
窓枠が標高六百七十八メートルにあるような地位にまで到達し

そしてまさにその小窓から——階段からではなく——

母なる祖国の慈愛の足下に狂ったように身を投げるのを

誇りに思うようなことなのだ

そして最後の遺言はこうだ

六百七十八枚のコインを支払って アブラハム・サフバー教授殿に

つまらない脚韻を用いてフォルグの哀悼の詩を詠んでもらいたい

(「ああ、栄光ある我が祖国よ」『新たなる生』^{※69})

「偉大な王朝の理想」とは、国王の姉妹が毎週水曜日に開催していた、ボランティアを目的にした富くじのことを、そして同じ連にある「冷蔵庫

や家具やカーテン」は、不正選挙、票の売買のことを揶揄しています。最後の連に登場する「アブラハム・サフバー教授」は、実在する伝統的定型詩詩人エブラーヒーム・サフバーのことで、フォルグの『囚われ人』や「罪」を批判した人物でした。本来のペルシア語の読み方であれば「エブラーヒーム」と表記すべきところを、敢えて「アブラハム」と英語風に綴り、伝統的定型詩には必須である「脚韻」に「つまらない」という形容詞を付けることによって、フォルグはサフバー氏と彼に代表される保守的な詩人たちを皮肉っています。ちなみにフォルグの作品中、「祖国」という単語が用いられているのはこの詩だけでした。フォルグが用いた「祖国」という単語には敬愛も誇りも感じられないのは、その単語を独裁化の道具として用いるようになった政権への批判の現れだったのです。

また、別の社会批判をテーマにした詩「かわいそうなお庭」では、初代国王の信奉者であった父親や、知識人を気取った兄も嘲弄の対象となっています。彼らは当時の保守的な古い世代や、1960年代の時流に乗った若者たちの代表として描かれています。実際の生活においてもフォルグの文学活動を「家族の恥」と見なし、フォルグを精神的に追い詰める存在でもありました。この詩はフォルグにとって「真実が存在する場所」である庭の荒廃を、家族の誰も気にしないと嘆くところから始まります。

誰も花たちのことを気にかけず
誰も魚たちのことを気にかけず
誰も信じようとしな
庭が死にかけていることを
庭の心臓が太陽の下で膨れ上がっていることを
庭の意識が徐々に
緑色の思い出から遠のいていることを
そして庭の感覚がまるで
孤立した中で腐敗した抽象物になっていることを
(……)
父はこう言う

「俺の時代は過ぎていった
俺の時代は過ぎていった
俺は自分の荷を担ぎ
己の仕事を果たしたんだ」
そして父は自分の部屋で 朝から晩まで
ある時は古典を読み
ある時は歴史書を読む
父は母にこう言う
「魚も鳥も知ったこっちゃない
俺が死んじまったら
庭があろうとなかろうと
どうでもいいことじゃないか
俺は退職金のことで頭がいっぱいなんだ」
(……)

042

兄は庭を墓場と言う
兄は草たちの動乱を見て嗤い
そして
病んだ池の水面下で
ただの腐乱物となった魚たちの死体を数える
兄は哲学にかぶれ
庭を治療するには
庭を全て壊せばいいと主張する
兄は酔っぱらって
拳を壁や戸に打ちつけては
俺は痛くて疲れて絶望しているんだよ
わざわざそんなことを言うてる
兄は自分の絶望までも
ID カードやカレンダーやハンカチやライターや万年筆のように
一緒に持って路地や繁華街に向かう
でも兄の絶望は

あまりにも小さいので

毎晩酒場の混雑の中で失くってしまうのだ

(「かわいそうなお庭」『寒い季節の訪れを信じよう』)^{*71}

では、フォルグにとっての本当の知識人とはどんな存在であったのでしょうか。イタリア人映画監督ベルナルド・ベルトルッチとの対談で、彼女はイランの知識人と大衆との関係について質問を受けた時、こう答えています。

(……) 一つの社会において基本的に知識人と大衆の間にある関係が成立するには、社会に精神的な理想が存在しなければなりません。でも私たちの社会には何も存在していません。空っぽなのです。(…)
私が思うに、知識人とは、生きる上での精神的問題を解決するために活動する人のことです。もちろん、イラン社会、あるいは私の周囲にいる人々について言えば、これに当てはまる人はいません。^{*72}

043

一方、フォルグは大衆をどのように見なしていたのでしょうか。「大地の詞」という詩では大衆を「小さな罪人」と表現しています。

(……)

人々は

人々の卑しい集団は

落胆し やせ衰え 驚いて

自分の肉体という不吉な荷を担いで

異郷から別の異郷へとさまよい

そして犯罪への悲しい望みが

彼らの手の中で膨らんでいった

(……)

彼ら自身恐怖に溺れる者たちであった

そして罪人の痛ましい感情は

その盲目で間抜けな魂を
麻痺させていたのだ

絶えず処刑の場では
絞首刑用の縄が
罪人の緊張しきった目を
圧力で眼孔から押し出した時
彼らは身を乗り出し
そして欲情的な光景に
その老いて疲れた神経はずきずきと痛むのだった
でも いつも広場の隅で
この小さな罪人たちが
立ち止まって
噴水の絶え間ない水しぶきをずっと
凝視するのを君は見ていた
（「大地の詞」『新たなる生』^{※73}）

044

大衆を「小さな罪人」と呼んだ点について、フォルグはラジオインタビューでこう説明していました。

人々は純粹であるがゆえに、心の中に罪を犯してしまう気泡のようなものを持っているのです。ですから、彼らにはまだ噴水の音に耳を傾けるような感情があるのです。彼らには信じるものがないだけなのです。ここでの「小さな罪人」という表現は「好んで罪を犯す人」ではないという意味です。それは些細な罪^{※74}なのです。

フォルグの知識人としての自覚は、第五詩集の題名にもなっている長編詩「寒い季節の訪れを信じよう」の中で観て取ることができます。この詩の冒頭で、信じるものがない時代を寒い季節の始まりにたとえています。

寒い季節のはじまりに
大地は汚染された存在を感じ始め
大空は純粹で悲壯な絶望を持ち始め
そしてこのセメントでできた手は無力なまま
(……)
救世主は墓の中で眠ったまま
そして大地は、救世主が眠る大地は
安寧の象徴なのだ
(……)

信じるべきものがない荒廃した冬の到来を、なぜフォルグは「信じよう」と呼びかけるのでしょうか。それは最終連で明らかになります。

(……)
信じよう
寒い季節の訪れを信じよう
想像の庭たちの荒廃を信じよう
逆さまになった役立たずの鎌を信じよう
捕らわれの身の種たちを信じよう
どんな雪が降っているのか見てごらん……

おそらく真実とは あの若い二本の手だった
それはひっきりなしに降る雪の下に埋葬され
そして次の春が来ると
窓越しに見えるあの空と床を共にし
そしてその中でほとぼしる
自由になった緑色の茎が噴水のように
芽吹くだろう ねえ友よ、たった一人の友よ

寒い季節の訪れを信じよう

(「寒い季節の訪れを信じよう」『寒い季節の訪れを信じよう』^{※75})

冬の到来は一見すると死や滅亡のようですが、雪に覆われた土の下では、埋葬されたはずの手が、「真実」を象徴する手が、春の訪れを待っているのです。春分の日が公式に新しい一年の始まりの日であるイラン人にとって、春は日本に住む私たち以上に「はじまり」を感じる季節です。新しい手、若い芽、新しい自分、あるいは新しい世代、それらはまだ見ることはできないけれども、土の下では確かに胎動を始めている。そして再び春がやってくれば、新しい一年、新しい季節、新しい世代、新しい時代が必ず訪れるはず。だからこそ、荒廃し絶望しかないように見えるこの冬の時代の訪れをまずは認め信じよう、目を背けず、しっかりと見据えよう、と呼びかけているのです。

フォーレグが「家」という言葉に込めた「血のつながり」や「社会的な慣習」は、彼女にとっては足枷に過ぎず、自由を求めて「家」から抜け出そうと常にもがき苦しんだ結果、得たものは「孤独」でした。孤独に苦しみながら、やがてこの孤独な「家」の中で自身と向き合い、そしてついに「庭」に真実の愛や人間の本質、再生への希望を見出したのです。30歳を迎える頃になり、この境地を「窓」という詩に込めています。

046

見るためにある一つの窓
聞くためにある一つの窓
自己の終焉の中にある 井戸の穴のように
大地の中心に届く一つの窓
そしてその窓が開く 青色が繰り返すこの慈悲の広がりに向かって
孤独な小さな手を
情け深い星たちの香りのする夜の贈り物で
いっぱいにしてくれる一つの窓
そしてそこから
太陽を赤いゼラニュームの異郷へと招待できる窓
私には窓一つでじゅうぶん

(……)

私は感じる 時が過ぎていくのを
私は感じる 私に与えられた「瞬間」が歴史の一頁であることを
私は感じる 嘘つきと離れたテーブルが
私の髪とこの悲しい見知らぬ人の両手の間にあることを
私に語ってごらん
生きている肉体の情けを恵んでくれる人が
生の実感以外にあなたに何を望むというの

私に語ってごらん
私はこの窓のそばで
太陽とひとつになっているから
(「窓」『寒い季節の訪れを信じよう』^{*76})

フォルグは、「窓」のそばにすることが自身の為すべきことだと結論付けます。「窓」もフォルグの詩の中で重要な意味を持つ言葉です。「窓」を通して、外界の雑踏を見つめ、「庭」にある真実を見つけ、自由や希望の象徴である空や太陽や星とつながることこそが自分のあるべき姿である、と。「庭」にある真実を見つけ、新たな季節を信じ、人々に語りかけ、自身に語り掛ける人に耳を傾けようという境地にたどり着いたのです。この境地に達したことを詩に表して間もなく、フォルグが事故により他界してしまったのは、本当に、本当に残念なことでした。考えても意味のないことだと思いつつ、私は時々、フォルグがイラン・イスラーム革命後も生きていたらどんな作品を書いていたのだろうか、と想像してしまいます。きっとスィーミンとはまた違う形で、多くのイラン人の心に寄り添う作品を書いてくれたことでしょう。

047

3-2. スィーミン・ベフバハーニーにとっての Home/Homeland

一方、スィーミン・ベフバハーニーにとっての Home/Homeland は、

彼女の経歴と作品を紹介してきたので明白かもしれませんが、「ああ、イラン」の愛国歌で謳われているような、イラン人が心の拠り所としてイメージする祖国です。ただし、それは、実際の歴代政権が作ってきた国家を指してはいません。彼女の母親の世代からそれを手に入れようとしてきた理想の祖国、つまり、社会的弱者が守られ、女性の権利が保障され、言論の自由がある祖国、それこそがスィーミンの理想とする祖国でした。そして先にご紹介しましたように、代表作「再び君を造ろう、祖国よ」は、ともに理想の祖国を求めて活動する盟友に送られた詩でした。この詩はその後、革命前に所属していたラジオ制作局の同僚だったダリューシュ・エグバーリー (1951-)^{※77}、彼は革命後アメリカに移住し、在米イラン人社会で歌手として成功していたのですが、彼によって曲が付けられると、瞬間にイラン国内外に広まりました。イランの国外に移住した人々にとっては望郷の詩として、イラン国内で理想の祖国を求めて活動する人々にとっては応援歌として。もう一度詳しく見てみましょう。

048

再び君を造ろう 祖国よ！ たとえこの身を礎にしようとも
 柱を君の屋根に接ごう たとえこの骨を礎にしようとも
 再びその匂いを嗅ごう 君に咲く花を 君の若者たちが望むとおりに
 再び洗い流そう 血まみれの君を この止まらぬ涙で
 ある日再び光が訪れ 暗闇はこの家から立ち去るだろう
 自らの詩に色を付けよう 君の空の蒼色で
 たとえこの身が消えて百年経とうとも 私は墓の傍らに立つだろう
 そこで悪魔の心臓を引き裂くために 我らの雄叫びによって
 「朽ちた骨」を 創作する者は ありがたくも
 まるで山のような雄大きさを この身に授けてくれよう 試練の場においても
 たとえこの身が老いさらばえようとも もし教育の機会があるならば
 我が幼子らとともに 一からやり直したい
 「愛国心」の物語を 熱く激しく語りたい
 全て心からの言葉として 魂を込めて それ以外口からは出ることはない

いまだ胸の中に 燃え盛る炎
周囲の人々の熱気がある限り 衰えることはないだろう
再び力を授けよう たとえ私の詩が血となろうとも
再び君を造ろう この身に代えて たとえこの力の限界を超えても
（「再び君を造ろう、祖国よ」『アルジャンの平原』^{*78}）

イラン・イスラーム革命以降、前述したダリューシュのように多くの盟友がイランを去り、スィーミンの身を案じた友人や親類も彼女に海外移住を勧めましたが、スィーミンは生涯イランに留まり活動を続けました。以下の詩は、ある詩の朗読会において、獄死した作家について語り始めたスィーミンを治安部隊の若者たちが力づくで妨害したことに抗議した詩ですが、最後の連に注目してください。

1メートル70センチ この高さから私の言葉は生まれ
1メートル70センチ この場所から私の詩は生まれるのです

049

1メートル70センチ それは清らかで素朴な心
抒情詩を愛する魂 忍耐強い女の肉体
私の行いが醜いと思うなら それはお前が私の中に自分を見ているから
ほらほら 私に石を投げるのをお止めなさい
お前を映すこの鏡も壊すことになるのだから
私が立ちあがれば 大柳となり広い木陰ができるでしょう
私が地に座れば 緑となり優美な絨毯ができるでしょう

一個の脳と数多くの取り締まりへの恐れが 私のスカーフの下で思考となり
一個の心臓と数多くの情熱が 私のドレスの下で詩となるのです

私の根元に斧を振るのはお止めなさい 私が倒れても良いことは無いのだから

お前たちの早魃の地に　私は芽吹き櫛の木を生やし古木となるのだから
(……)

70年私はこの地に住み続けています　失われることがないように
この祖国の1メートル70センチの　土地に骨を埋めるために
〔1メートル70センチ〕『たとえばこんな…』^{*79}

自分に敵対する者たちを時には咎め、時には論しながら、最後に自身の身長170センチ分の祖国の地を墓にするのだと彼女は宣言しています。敢えて苦難の道を選んでまで、イランに留まった理由は何だったのでしょうか。スィーミンが2009年、大阪大学で講演した際、私は彼女にイラン以外の国への移住を考えたことはないかと尋ねると、このように答えてくれました。

全く（ありません）。私はイランから海外に出た時はいつでも、（帰りの）飛行機のチケットを枕の下に置いておき、一晩に一度はいつ戻るのかとそれを眺めています。今、まさにあなたたちが私に抱いて下さる愛情と友情や、この街やこの国の美しさ、あなた方が持っているものすべてを以てしても、そして私のイランでの生活がどんなに簡素であったとしても、私はやはりイランに帰りたいのです。

もし私が（イランから）出たいと思えば、多くの機会がありました。というのもあちこちに出て暮らし（イランに）戻らない親類縁者がいますから。私の家族からも、私が望めば好きな国に出て行くことができるのに、なぜどこにも行かず、自分たちをやきもきさせるのかと責められています。でも私はイランから出られないのです。まず私には同胞たちとの間に古くからのつながりがあるからです。もちろん、一つの国にこだわらない人も沢山いるでしょう。（……）でも家が一つだけの人もいます。たとえば、あなたがお母さんと一緒に子どものころにアイスクリームを食べた場所とか、たとえばあなたが過ごした幼稚園とか、そういったものがここに残っているなあとすることがあるでしょう。私にとっても、まだ私の通った幼稚園があったガヴァー

モッサルトネ通りに行くと、今でも子どもに戻った気がします。^{※80}

スィーミンがイランを離れなかったのは、過去からのつながりがある場所だからであり、そして同胞たち、ペルシア語で「ハム・ヴァタン」^{※81}、直訳すると「祖国を同じくする者」たちが暮らす場所だからでした。そしてイランを離れ帰郷したくとも叶わぬハム・ヴァタンたちにとっても、イラン国内で民主化運動に参加するハム・ヴァタンたちにとっても、「スィーミン・ベフバハーニーがイランにいる」ということ自体が、未来につながる希望でした。スィーミンの祖国への愛は「ハム・ヴァタン」たちへの愛でもあります。理想の祖国を造ることを呼びかけるスィーミンは、特定の宗教的・政治的イデオロギーを主張することはありませんでした。たとえば、2006年、イラン国内外の女性たちを中心に広がった「差別的な法律撤廃のための100万人署名キャンペーン」^{※82}に関して寄稿したスィーミンの声明文からも彼女の姿勢が窺えます。

051

この運動は政党によるものではありません。意思を同じくする者の運動です。一つの確定したことにおいて意思を同じくする者たちの運動です。全てのイラン人女性がそれぞれの信念や理想とこの運動に同意することができるのです。(……) この説明によってもし特別な思想や信仰を以て共闘を呼びかけられるのであれば、それは「男女間の権利の平等」という分野における行動と同意であり、「差別撤廃協定」につながるものであり、当然、各個人の信仰や価値観は尊重されると見なされています。最後に私が強調したいのは、イランの女性たちが、あらゆる民族、あらゆる信仰、あらゆる文化的価値観、あらゆる集団や政党との関係から、自身の権利の平等化という問題において目的を果たすために志を一つにし、一つの言葉で連盟すべきである、ということ^{※83}です。



100万人署名キャンペーンのロゴを
背景に記者会見（2007年）



テヘラン大学前での
女性たちの集会にて（2005年）

3-3. まとめ

イランを代表する二人の女性詩人の描く全く対照的な Homeland のイメージは彼女たちの育った環境が大きく影響しています。スィーミンは社会活動に熱心だった親たちの影響により、幼い頃から知識人としての意識を持って自身の周りの世界を観察し、作詩していました。スィーミンにとって Homeland は絆であり、そのつながりこそが社会活動・作詩活動の原点でした。だからこそ、彼女の祖国愛の詩は、理想の Homeland を築くために活動するハム・ヴァタンたちを鼓舞し励ましてきたのです。一方、フォルグにとって Homeland は父親が信奉するレザー・シャー時代の愛国主義の象徴であり、前時代的なものでした。それゆえ「ヴァタン (homeland)」という単語も、時の施政者を揶揄する皮肉な表現ための道具にすぎませんでした。当然、「ハム・ヴァタン」という単語は一度たりとも使われていません。その代わりに、「たった一人の友」という呼びかけで、人々に語りかけています。フォルグの詩を読んでいると、何かに奮い立つようなことはないけれど、フォルグが自分の孤独を共有し隣に寄り添ってくれているような気持ちになります。この作風の違いは、彼女たちの置かれた環境の違いに加えて、それぞれの詩が受容された時代の違いも大きく影響していました。フォルグの個人的経験に基づく詩が非難されながらも脚光を浴びた時代は、モハンマドレザー・シャーによって西欧化が進みつつある時代でした。上からの改革と西欧文化の流入によって表面的には伝統的・保守的な思考は隅に追いやられた時代です。伝統的定

型スタイルを捨て、形式よりも内容を重視したスタイルを生み出したフォルグの試みは、まさにこの時代にマッチしたものでした。この頃はスィーミンとフォルグの文学活動が重なっていた時期なのですが、二人が共同で文化活動に参加した記録は見つかりませんでした。あるイラン人研究者に「二人と一緒に活動したことはなかったのですか」と聞いたことがあります。「その当時はフォルグのスタイルが花形で、スィーミンのような定型詩スタイルの詩は時代遅れと見なされていた」との答えが返ってきました。スィーミンにお会いした時に、フォルグについてどう思うのか聞いたこともあります。いたって客観的にフォルグを賞賛していました。スィーミンの作品が注目されるようになったのは、フォルグが亡くなってしばらく経ってからでした。時代はイラン・イスラーム革命からイラン・イラク戦争へ、西欧的雰囲気は完全に排除され、革命前に高く評価されたものはことごとく否定されていきました。その中で、一貫したスタイル——伝統的定型詩に口語の要素を取り入れた新しい韻律による作法——を通したスィーミンの作品が次第に脚光を浴びるようになったのは当然のことだったのかもしれない。

053

4. 二人の詩人の作品の「その先」

最後に、彼女たちの作品がどのように国や時代、ジャンルを超えて受容されているのかについてお話します。フォルグが亡くなって58年、スィーミンが亡くなって7年が経ちましたが、彼女たちの詩の熱量はいまだに失われることなく、世代や国境を越えて幅広い年齢層に受容され、別の芸術作品となって発表されています。

スィーミン・ベフバハーニーの「再び君を造ろう、祖国よ」は、特にイラン国外に移住したイラン人たちの手によって革命前後の画像や映像によるビデオクリップになり、オンライン上にアップされています。主に現政権に対する人々のプロパガンダ的内容が目につきます。

フォルグの作品は、映画監督や作家たちに様々なインスピレーションを与えているようです。イランの巨匠と言われている映画監督、モフセン・

マフマルバーフの『サイレンス』、アッパース・キヤーロスタミーの『風が吹くまま』、アボルファズル・ジャリーリーの『少年と砂漠のカフェ』に、フォルグの詩が重要な役割を果たしています。

まず 1998 年に製作された『サイレンス』^{※84}は、気になる音があるとそれに付いていってしまう視覚障害のある調律師の少年が主人公で、その少年を取り巻く人々との交流と、彼が耳にする音楽や音の数々が情感豊かに描かれている作品です。主人公と関わる人間の一人に彼の世話を焼く楽器工場の娘がいて、彼女が踊るシーンがあるのですが、その際、彼女はさくらんぼをイヤリング代わりに、ダリアの花びらをマニキュア代わりにして踊ります。これがフォルグの「新たなる生」の中に出てくる詩人の娘時代のイメージと全く同じなのです。

耳には双子の赤いさくらんぼのイヤリング
爪にはダリアの花びらをマニキュアにして
ある路地には
わたしを愛してくれた少年たちが 今も
くしゃくしゃの髪と細い首と痩せた脚のまま
ある夜 風が連れ去ってしまった少女の
その純潔のほほえみを想っている
(「新たなる生」『新たなる生』)^{※85}

054

子どもなりのお化粧が、少女の純朴さや可憐さを上手に表現していますし、同時にフォルグの「新たなる生」を知っている人であれば、彼らの淡く純粋な愛情の時間はあっという間に過ぎ去ってしまうものだということを予見できる効果も生み出されたはずです。

次に、キヤーロスタミー監督の『風が吹くまま』^{※86}をご紹介します。この映画は、主人公の TV プロデューサーが、葬式で珍しい風習を行う村にもうすぐ息を引き取りそうな老婆がいると聞きつけ、クルー一行を連れてやってくるころから始まります。都会から来た忙しい TV プロデューサーと、マイペースに暮らす村の人々との交流が主軸になっています。老

婆が予想に反してなかなか死なず、予定よりずっと長く滞在することになったプロデューサーが、現地の人々の素朴な生活に触れるうちに少しずつ自身の生き方を顧みるという様子が、自然の風景を背景に描かれています。映画の題名にもなっている「風が吹くまま」は、直訳すれば「風が私たちを運び去るだろう」という意味で、フォルグの詩の題名から取ったものです。この詩を主人公が暗唱するシーンがあります。主人公が牛乳をもらいに牛小屋に行くと、そこは停電で真っ暗でした。その暗闇の中、無言で乳を搾る娘と二人きりでいることに居心地が悪くなった主人公は、突然、フォルグの「贈り物」という短い詩を暗唱し始めます。以下、映画の台詞を引用します。

「もしも私の家に来るなら
友よ、小さな明かりをもってきて
小さな窓から雑踏が見えるように」

突然詩を暗唱し始めた男に、これまで一言もしゃべらなかつた娘が口を開きました。

「何、それ何なの？」
「ただの詩さ。君、歳は？」
「16歳よ」
「フォルグは知ってる？」
「知ってる。近所の人よ」
「違う、僕が言っているのは詩人だ」

こう言ったあとに主人公は、この「風が吹くまま」を暗唱します。

私の小さい夜、風と木の葉が逢瀬する
私の小さい夜、恐れる恐怖が潜んでいる
聞いて、暗闇のささやきを

この幸せは、まるで他人事
私は不幸に慣れてしまった
聞いて、暗闇のささやきを
何かの前兆か、月は不安気に赤く
今にも崩れそうな屋根の上では
まるで葬列に加わる人々のように
雲が雨の誕生を待っている
それは、ほんの一瞬の期待
外では夜が震えている
地球は回転を止める
窓際で、見知らぬ自分が
あなたと私の心配をしている
緑のあなた
思い出に震える手を、私の手にいて
命の温もりに溢れる唇を、
私の恋する唇に重ねて
風が吹くまま^{※37}

056

主人公が詩を読み終えると、娘が「学校は行ったの？」と聞きます。ペルシア語は主語をよく省略するので、誰のことなのか分からず、主人公が聞き返します。

「誰が？」

「その詩人よ」

「たぶん4年生か5年生までね。詩というのは勉強しなくても書けるんだ。君だって才能があれば書けるよ」

この娘をはじめ、娘が密会していた（そしてそのことを主人公に揶揄われます）青年や、道案内をしてくれる少年らと言葉を交わしていくうちに、あるいは懸命に生きる亀やフンコロガシを見ているうちに、主人公は

自身や自分の生き方を見つめ直し、最終的には老婆が亡くなってもあれだけ待ち焦がれていた葬儀の風習を取材することはなく、都会に帰っていきます。風の吹くままに……。その後彼がどうしたのかは、見る側に委ねられています。

アボルファズル・ジャリーリーの『少年と砂漠のカフェ』^{※88}は、アフガニスタンとイランの国境付近で老夫婦が営むカフェ——と言うよりも、むしろトラック運転手たちの休憩所、と言った方が適格だと思いますが——が舞台の映画です。そこへ一人のアフガン難民の少年がふらりとやってきて、老夫婦の手伝いをしながら周囲の人々と関わっていきます。彼らも少年が難民だと知りつつも公にすることなく彼を受け入れ、少年は自分の居場所を手に入れました。しかし、カフェがある通りの近くに大きな国道ができてしまい、カフェの前の道は閉鎖、お客も来なくなり、病気がちだったおばあさんが亡くなり、その後、おじいさんも絶望したまま逝ってしまいます。誰もいなくなったカフェを立ち去る日、少年は新しい国道に釘をドワーッと撒き散らします。そして荷物を持って少年も旅立って行く、そのラストシーンで、「新たなる生」の最後の連を朗読するフォルグの声がバックに流れます。

057

私は

悲しそうな ちいさな妖精を 知っている

その子は 大海の中に住んでいて

その心を 木製の牧笛で

奏でているのだ やさしく やさしく

悲しそうな ちいさな妖精は

夜に キスをひとつさされて死んでしまう

そして明け方 またひとつキスをされて 再び 生まれてくるのだ

(「新たなる生」『新たなる生』^{※89})

フォルグを知らない人であっても、あるいはフォルグを知っている人であればなおさら、この詩を聞いて「あ、ここからこの子の新しい人生

が始まるのだな」と分かり、この旅立ちが決して絶望ではないことを予感するでしょう。

イラン映画と言えば「詩情豊かな映像美」と評されがちですが、実際に詩が、まるで小道具のように映画の中で使われることもあります。しかし、奇しくもイランを代表する監督たちがこぞってフォルグの詩を使っているのは、彼女の詩が国境や世代を超えて理解されうるものだと認識されていたからではないでしょうか。



最後に、フォルグを題材に書かれた小説をご紹介します。2018年にアメリカで出版された『囚われた鳥の唄』^{※90}というフォルグの前半の人生を基にしたフィクションです。作者はペルシア語読みではダズニクだと思いますが、おそらく英語読みですとダーズニクとなるようですので、ここではそう呼ぶことにします。

058 この小説の存在を知った経緯ですが、フォルグについて日本語検索をしていたときに、東京外国語大学のプロジェクト「日本語で読む世界のメディア」というHPの、ペルシア語ではなくトルコ語の記事がヒットしました。早速アクセスしてみると、2020年5月13日付のトルコ語の新聞Milliyet紙に「2、3年間、フォルグの惑星に暮らしていました——フォルグ・ファッロフザードの人生を描いた小説のトルコ語訳が刊行」というタイトルの記事が掲載されていました。^{※91}アメリカ在住の女性研究者ジャスミン・ダーズニクがフォルグの人生を題材にした小説を出版し、それがトルコ語にも翻訳され出版された、という内容でした。

ジャスミン・ダーズニクは、1974年のイラン生まれですが、1979年、イラン・イスラーム革命前の混乱期に家族でアメリカに移住しました。UCLAで学士号を取得、この頃、フォルグの詩を読んだそうです。その後、カリフォルニア大学ヘイスティンクス法科大学院で法科学位を、プリンストン大学で英文学のPh.Dを取り、今はカリフォルニア芸術大学の准教授で、Creative Writingなどを教えています。

作者自身は1970年代生まれですので、当然フォルグの少女時代、つまり1950年代のテヘランは知らないはずですが、彼女の小説を読んでい

ると、まるで当時のテヘランの街の喧噪や人々の息遣いまで聞こえてきそうほど生き生きと描かれています。『囚われ人』が出版された頃のフォルグが主人公で、実話とフィクションが入り混じっていますが、家父長制社会の中で自身の意思と好奇心と感情に逆らうことなく正直に生きるフォルグの姿が生き生きと描かれていて、とても印象的でした。

この章の結びとして、作者の後書きを紹介したいと思います。

私の家族も、そして私も二度とイランに戻ることはなかったが、いくつか思い出の品が手元に残っている。私の母が四苦八苦してアメリカに持ってきた愛用品の中に、フォルグ・ファッロフザードの一冊の薄い詩集があった。大きくなって私はしばしばその本を目にすることがあった。ボブヘアーにアイライナーを入れた女性の表紙が今でも目に焼き付いている。先ほど紹介した「罪」という詩を読んだ瞬間、私はフォルグの言葉や率直さやオープンさにとり憑かれた。また彼女の大胆さにも感銘を受けた。これは一人の女性の視点から書かれた希望の詩であった。イラン人女性たちは、本当にこんな風だったのだろうか。(……)

私は『囚われた鳥の唄』に取り組んだとき、フォルグの勇敢さ、不屈の精神、独立心に常に心を打たれ、そして彼女が直面した屈辱と偏見と残酷さに心を痛め、彼女の才能の明敏さに畏敬の念を抱いた。私はフォルグの作品を通してあの国に戻る方法を見つけたが、驚いたのは、彼女の夢や怒りの多くが今現在も繰り返されていたことである。^{※92}

059

5. おわりに

さて、長い間お付き合い頂きましたが、スィーミン・ベフバハーニーとフォルグ・ファッロフザードについて私をご紹介したかったほぼすべてを出し尽くしました。世代の近い二人の女性が描いた Home/Homeland は全く方向の違うものでしたが、それぞれの描く Home/Homeland を通して受容された時代の流れやイラン人たちの求めていたものを少しでも理

解して頂けたら幸いです。

最後の最後に感想です。50年という時間を経てもいまだに女性たちの置かれた環境がイランであり変わらないことに在米作家ダーズニクは驚いていましたが、私たちが暮らす日本でも、昨年のDV相談件数過去最高というニュースや国内の# MeToo運動などを見ていると、日本女性の置かれた環境も根本的な部分では昔とあまり変わっていないことに憤りを感じずにはられません。そして、2020年代ですらこういった問題に女性たちが声を上げる難しさを感じるにつけ、スィーミンやフォルグの精神的な強さと勇氣にはただただ感嘆するばかりです。

ご清聴、ありがとうございました。

060

雑誌『フェルドウスィー』の
フォルグ特集表紙(左)
フォルグと自筆原稿
(中央、右)



スィーミン・ベフバハーニー詩集
表紙とサイン

- p.010 ※ 1 Sīmīn Behbahānī سیمین بهبهانی
 ※ 2 Forūgh Farrokhzād فروغ فرخزاد
 ※ 3 M. Shāhhoseinī, 1995, *Zanān-e Shā'er-e Īrān* زنان شاعر ایران
 ※ 4 mo'assese-ye enteshārāt-e negāh معسسه انتشارات نگاه
 ※ 5 She'r-e zamān-e mā. شعر زمان ما. フォルグはシリーズ4巻目、スィーミンは6巻目。
- p.011 ※ 6 Rezā Khān رضا خان (1878-1944)
- p.012 ※ 7 Rezā Shāh Pahlavī رضا شاه پهلوی 在位：1925-1941。
 ※ 8 she'r-e nou شعر نو
 ※ 9 Nīmā Yūshīj نیما یوشیج (1897-1960)
 ※ 10 Abbās Khalilī عباس خلیلی (1893-1972)
 ※ 11 Fahr-Ozmā Arghūn فخر عظمی ارغون (1898-1966)
- p.013 ※ 12 M. Shāhhoseinī 1995:88
 ※ 13 Parvīn E'tesāmī پروین اعتصامی (1907-41)
 日本では「エテサーミー」と紹介されることが多いが、ここでは原語に近い発音の「エエテサーミー」とする。イラン北西の都市タブリーズの名家に生まれる。伝統的定型詩を用い、立憲革命期の作風であったことから立憲革命期の近代詩の詩人としてカテゴライズされる。『バルヴィーン詩集 ادیوان پروین اعتصامی』の序文は立憲革命期を代表する桂冠詩人バハールによる。『イランの女性詩人』でバルヴィーンは、13 ページを占めており、フォルグに次ぐ数の詩が紹介されている。
- p.014 ※ 14 Hillman 1987:7
- p.015 ※ 15 Tūde توده
 ※ 16 Nou Bahār نو بهار
 ※ 17 Fujimoto ed. 2011:34
- p.017 ※ 18 Farrokhzād 1984/5:46-50
- p.018 ※ 19 百田直樹, 2012
 ※ 20 Hasan Behbahānī حسن بهبهانی
 ※ 21 Se-tar-e shekaste سه تار شکسته, 1951 Tehran, Enteshārāt-e 'Elmī.
- p.019 ※ 22 Parviz Shapour, 1924-2000. アフヴァーズの財務省管轄の部署で勤務した後、風刺作家として活動。1967年、詩人アフマド・シャームルーが編集長を務めた雑誌『フーシェカマ』に「カリカラムトウールカクタウール」(「カリカチュア」)と「語彙」(「カマ」)の造語)という、風刺文とイラストの新しいジャンルの作品を発表し、人気を博した。
- p.020 ※ 23 Farrokhzād 1973/4:33-36
 ※ 24 Asīr اسیر
 ※ 25 Dīvār دیوار
- p.021 ※ 26 Farrokhzād 1971:4

- ※ 27 Farrokhzād 1971:40
- ※ 28 فروغ جاودان مجموعه شعرها و نوشته ها و گفتگوی فروغ فرخزاد *Forūgh-e jāvedāne: Majmū'e-ye she 'rhā va neveshtehā va goftoghā-ye Forūgh Farrokhzād.* ed. 'Abd al-Rezā Ja'fārī, 1999/2000, Tehran, Nashr-e Tanvīr, pp.66-116. 日本語訳は、鈴木珠里、「異国にて」、『中東現代文学選 2012』pp. 221-250。
- ※ 29 'Osyān عصبیان
- p.022 ※ 30 Manūchehr Kūshyār منوچهر کوشیار
- ※ 31 شورای شعر و موسیقی رادیو ایران
- p.023 ※ 32 Behbahani 1999:xxi
- ※ 33 غزل
- ※ 34 بانو غزل
- ※ 35 Ebrahim Golestan, 1922-. シーラーズの聖職者の家庭に生まれる。高校までシーラーズで過ごし独学で英語と仏語を学び、ヘミングウェイの作品に強い影響を受ける。41年テヘラン大学法学部入学、43年結婚、二人の娘を授かる。48年テヘラン大学卒業後、アーバーダーンの石油会社で働きながらヘミングウェイの翻訳や自費出版で短編小説を出版。51年の退職後はテヘランにてフリーのカメラマンとして働く。55年短編集『影狩り Shekār-e Sāye』出版、57年映画会社「ゴレストーン・スタジオ」を設立。石油会社のプロモーション映画を多く手掛けた。
- ※ 36 Khāne siyāh ast. 日本では『ブラック・ハウス』のタイトルで2002年山形国際ドキュメンタリー映画祭にて初上映。
- ※ 37 当時の名称は「西ドイツ短編映画祭」。旧ドイツのオーバーハウゼンで1956年に設立された短編映画専門の映画祭。1991年に「オーバーハウゼン国際短編映画祭」と改名。
- p.024 ※ 38 تولدی دیگر
- ※ 39 آرش
- ※ 40 ایمن بیوریم به آغاز فصل سرد
- p.025 ※ 41 velāyat-e faqīh ولایت فقیه
- p.026 ※ 42 Sīmīn Dāneshvar سیمین دانشور سوواشون, 1921-2012. 作家、翻訳家。テヘラン大学文学部在学中に父親が亡くなり、苦学の末博士号を取得。27歳の時、イラン人女性で初めての短編小説集を出版。夫はイランを代表する作家ジェラルド・アーレ＝アフマド（1923-1969）。1968年、イラン作家協会会長就任。夫の死後まもなく出版した長編『サヴァーシェーン سوواشون』はベストセラーとなり、現在15か国語に翻訳されている。
- ※ 43 Behbahānī 2003:711-712
- p.027 ※ 44 Behbahānī 2003:658
- ※ 45 Behbahānī 2003:668

- p.028 ※ 46 <https://news.mojahedin.org/i/news/142321>
<https://www.tribunezamaneh.com/archives/235283>
 2021.07.20 確認
- ※ 47 Behbahāni 2003:919-920
- p.029 ※ 48 Behbahāni 2003:786-787
- ※ 49 دشت ارژن
- p.030 ※ 50 درباره هنر و ادبیات
- ※ 51 گزینه اشعار سیمین
- ※ 52 在位 1997-2005
- ※ 53 *A Cup of Sin*
- p.031 ※ 54 Behbahāni 2003:969-970
- p.032 ※ 55 Behbahāni 2011
- ※ 56 <http://parand.se/?p=8065> 2021.07.20 確認
- p.034 ※ 57 khāne خانه
- ※ 58 Farrokhzād 1973/4:33-36
- p.035 ※ 59 Farrokhzād 1973/4: 92-93
- ※ 60 Farrokhzād 1972/3: 69-70
- p.036 ※ 61 bāgh باغ
- ※ 62 bāghche باغچه
- p.037 ※ 63 Farrokhzād 1972/3: 127-128
- p.038 ※ 64 Farrokhzād 1972/3: 167-168
- ※ 65 vatan وطن
- ※ 66 Farrokhzād 1999/2000:445
- ※ 67 Ey Irān ای ایران
- p.039 ※ 68 (iribnews.ir) سروود ای ایران ای مرز پرگهر + دانلود | خبرگزاری صدا و سیما
 2021.07.21 確認
- p.040 ※ 69 Farrokhzād 1972/3: 148-158
- p.041 ※ 70 Hillman 1987:55
- p.043 ※ 71 Farrokhzād 1984/5:67-68
- ※ 72 Farrokhzād 1999/2000:466
- p.044 ※ 73 Farrokhzād 1972/3: 98-105
- ※ 74 Farrokhzād 1999/2000:445
- p.046 ※ 75 Farrokhzād 1984/5:21-44
- p.047 ※ 76 Farrokhzād 1984/5:64-65
- p.048 ※ 77 Darūsh Eqbālī داریوش اقبالی
- p.049 ※ 78 Behbahāni 2003:711-712
- p.050 ※ 79 Behbahāni 2003:1059-1061
- p.051 ※ 80 Fujimoto ed. 2011:21
- ※ 81 ham-vatan هم وطن
- ※ 82 「差别的法律撤廢のための 100 万人署名キャンペーン

One Million Signatures for the Repeal of Discriminatory Laws

「یک میلیون امضا برای لغو قوانین تبعیض آمیز」が女性を中心にイラン国中で広がり、多くの逮捕者を出しながらも世界中の耳目を集め、後にいくつかの団体から表彰された。

- ※ 83 <http://www.feministschool.com/spip.php?article2576> 2021.07.22 確認
- p.054 ※ 84 sokūt سکوت (1998) イラン・フランス・タジキスタン共同制作。モフセン・マフマルバーフ監督・製作・脚本。1998年ヴェネツィア映画祭上院議員金メダル賞受賞。
- ※ 85 Farrokhzād 1972/3:167
- ※ 86 bād mā rā khāhad bord باد ما را خواهد برد (1999) イラン・フランス共同制作。アッバース・キヤーロスタミー監督・製作・脚本。1999年ヴェネツィア国際映画祭審査員グランプリ受賞。
- p.056 ※ 87 『風が吹くまま』ユーロスペース 1999年劇場用パンフレットより(日本語字幕:石田泰子 字幕監修:ショール・ゴルパリアン)。Farrokhzād 1972/3:30-33
- p.057 ※ 88 delbarān دلبران (2001) 日本・イラン共同制作。アボルファズル・ジャリリー監督・脚本。2001年ナント三大陸映画祭グランプリ、ロカルノ国際映画祭審査員特別賞受賞。
- ※ 89 Farrokhzād 1972/3:169
- p.058 ※ 90 Jasmin Darznik, *Song of a Captive Bird*, 2018
- ※ 91 http://www.el.tufs.ac.jp/prmeis/html/pc/News20200514_184809.html 2021.07.23 確認
- p.059 ※ 92 Darznik 2018:394

参考文献

英文

- Darznik, Jasmin, 2018, *Songs of a Captive Bird*, New York, Ballantine Books.
- Behbahani, Simin, 1999, *A Cup of Sin selected poems Simin Behbahani*, Farzane Milani and Kave Safa, ed. and tr. Washington D.C., Syracuse University Press.
- Hillman, Michael, 1987, *A Lonely Woman: Forugh Farrokhzad and Her Poetry*, Washington D.C., Mage Press.
- Fujimoto Yuko ed., 2011, *Woman and Narration: Gendered Narratives in Oral and Written Persian Literature*, Osaka University.

ペルシア語

- Behbahānī, Simīn, 2003, “مجموعه اشعار، سیمین بهبهانی، Majmū‘e-ye ash‘ār,” Tehran, Mo‘ase-ye Enteshārāt-e Negāh.
- , 2004, “زنی با دامنی شعر چشمن نامه سیمین بهبهانی، Zani bā Dāmānī-ye She‘r, Jashn-nāme Simīn Behbahānī,” Dehbāshī, ‘A‘lī ed., Tehran, Mo‘ase-ye Enteshārāt-e Negāh.
- , 2011, ‘ایمان بیابوم به آغاز فصل سرد’ Mosāhebe bā majale-ye Subaru’ in Fujimoto, ed., 2011.
- Farrokhzād, Forūgh, 1971, “دیوار Dīvār.” fourth ed. Tehrān, Enteshārāt-e Amīr Kabīr.
- , 1972, “تولدی دیگر Tavallođi digar.” sixth ed. Tehrān, Enteshārāt-e Morvārid.
- , 1973/4, “اسیر Asīr,” seventh ed. Tehrān, Enteshārāt-e Amīr Kabīr.
- , 1982, “ایمان بیابوم به آغاز فصل سرد” Īmān biyāvarīm be āghāz-e fasl-e sard. ”Tehrān, Enteshārāt-e Morvārid.
- , 1989, “مجموعه اشعار فروغ” Majmū‘e-ye ash‘ār-e Forūgh,” W. Germany, Enteshārāt-e Navīd.
- , 1998/9, “ایمان بیابوم به آغاز فصل سرد” Īmān biyāvarīm be āghāz-e fasl-e sard, twelvth ed.. Tehrān, Enteshārāt-e Morvārid.
- , 1999/2000, “فروغ جلودان مجموعه شعرها و نوشته ها و گفتگوی فروغ فرخزاد” Forūgh-e jāvedāne: Majmū‘e-ye she‘rhā va neveshtehā va goftogūhā-ye Forūgh Farrokhzād.” ed. ‘Abd al-Rezā Ja‘farī. Tehran, Nashr-e Tanvīr.
- Mīl ānī, Farzāne, 2016, “فروغ فرخزاد، زندگی نامه ادبی، همراه با نامه های چاپ نشده” zendeġī-nāme-ye adabī, hamrāh bā name-hā-ye chap na-shode.” Toronto, Persian Circle.
- Shāhhoseīnī, Mehri, 1995, “زنانه شاعر ایران” Zanān-e shā‘er-e īrān. ”Tehrān, Mo‘asse-ye enteshārāt-e modda.

日本語

鈴木珠里、前田君江、中村菜穂、ファルド・ファルズィン編訳、2009、『現代イラン詩集』土曜美術出版販売。

中東現代文学研究会編、2013、『中東現代文学選2012』、京都大学大学院人間・環境学研究科 岡真理研究室。

白田直樹、2012、『海賊と呼ばれた男（下）』講談社。

藤元優子、2014、『現代アジアの女性作家秀作シリーズ 天空の家 イラン女性作家選』段々社。

【画像の出典】

- p.009 撮影：鈴木珠里
- p.010 Shāhhoseini, M., 1995, Zanān-e Shā' er-e Īrān زنان شاعر ایران
- p.019 Wikimedia Commonsより <https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Parviz-Shapour-and-Forough-Farrokhzad.jpg?uselang=fa>
- p.020 Farrokhzād, Forūgh, Asīr 1955, اسیر
- p.023上 Wikimedia Commonsより https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/0/05/Ebrahim_Golestan_134746_509.jpg/330px-Ebrahim_Golestan_134746_509.jpg
- p.023下 Haiderī, Gholām. Forūgh Farrokhzād va sīnemā 1998/9, فروغ فرخزاد و سینما, Tehran, Nashr-e 'elm.
- p.025 撮影：鈴木珠里
- p.033 Radio Free Europe Radio Liberty, 2014/8/22より <https://www.rferl.org/a/iran-funeral-poet-behbahani/26545439.html>
- p.036 Shaparak Media Group
- p.052左 Behrouz Mehri/AFP/ Getty Images <https://www.npr.org/sections/thetwo-way/2014/08/19/341598792/poet-known-as-the-lioness-of-iran-dies-at-87>
- p.052右 zamane tribune, 2020/7/19より <https://www.tribuneczamaneh.com/archives/235283>
- p.060上段 Shaparak Multimedia GroupのC-VDより
- p.060下段 ネガ一出版社、2009